

拝啓 今年も早や5月下旬、梅雨の前となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。5月は、普段は名前がわからない公園の木々が花を咲かせて楽しませてくれました。細い系のような白い花をきれいに咲かせるのは、ヒトツバタゴ(別名ナンジャモンジャ)という木でした。また、あちこちにあるエゴノキが、白い花を木いっぱい咲かせてきれいでした。

今回から、『ミス・ローラ・J・モーク その信仰と生涯』などから引用をいたします。ミス・モークは、小西芳之助先生が大正6年にキリスト教を初めて教わり、以来ずっと教えていただいたアメリカ人の宣教師で、そのお人柄のすばらしさをよく聞かされておりました。一言でいえば、実に謙遜な方ということでありました。これから私がエンカウンターのテキストに使う『ミス・ローラ・J・モーク』は、昭和39年発行の本で、『祝ご結婚昭和43年5月18日高円寺東教会』と小西先生の筆で書かれた署名があります。当時読んでモーク先生のお人柄のあたたかさに大変感銘を受けた思い出があります。小西先生は、内村鑑三先生を父とし、モーク先生を母として信仰を学ばれたという言い方をされることもあります。

南原繁先生の伝記を一応書き終わりました、目下東京大学出版会に原稿を提出して、出版して頂けるようお願いをしています。どうか、審査にパスして、出版できるようにお祈りください。

南原先生は、子供の頃お母さんに連れられて人形浄瑠璃をよく見に行かれ、ご自分でもお好きで、よく文章に書かれています。このため、伝記の原稿が一通り書き終わった段階で、一度人形浄瑠璃とはどんなものかと、5月21日に、国立小劇場に見に行きましたが、その迫力に圧倒されまして、大変深い感動を覚えました。人形浄瑠璃は、舞台では、ひとりの人形を1人の人形使いと2人の黒子が動かし、舞台の脇で、物語を語る人が義太夫を謡い、傍で三味線が引かれます。南原先生が総合芸術だと言っておられますが、なるほどと思いました。出し物は、「ふたりかむろ」「絵本大功記」「生写朝顔話」でした。南原先生の幼年時代の伝記を書かれた岩本三夫さんの著書に、「浄瑠璃は、義理と人情に関連して決断力、判断力の養成に役立つテーマのものが多く」という趣旨のことが書かれていましたが、なるほどと思いました。恥ずかしながら、69才にして始めて大変な日本の古典芸術の分野があることを知りました。皆様も、機会を作って一度国立劇場に行かれることをお勧めします。

梅雨に向かう時期、どうぞ皆様もお身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

平成23年5月27日

山口周三

エンカウンターの読者各位